

説教要旨「権威ある言葉」

ルカによる福音書4章31～37節

イエスが会堂で教えておられると、汚れた悪霊に取りつかれた男が大声で叫び出しました。「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ」と。お前と我々は関係ない、だから我々のところに首を突っ込むな、と言っているのです。イエス・キリストと自分とは関係ない、自分の生活や問題に首をつっこまれたくない、自分は自分だけでやっていきたいのだ、そのようにこの人に思わせ、語らせているのが悪霊です。

この悪霊の支配から解放されることには痛み、苦しみが伴います。悪霊が追い出される時、この人は、自分が自分の思いで語っていると思っていた言葉が間違っていたことに気付かされます。それは自分がこれまで行い、語ってきたことが真っ向から否定される出来事です。そして彼は人前で投げ倒された。誰も見ていない所でそっと悪霊が追い出されたのではないのです。しかし人々の中に投げ倒されることを避けていては、主イエスによる解放の恵みにあずかることができないのです。

悪霊からの解放。自らの罪を人前でさらけ出され、それによって衝撃を受け、立ってられないような思いに陥った人を、共に礼拝している仲間たちが支え、助け、そして彼が再び立ち上がり、神様に感謝して生きていく手助けをします。このことによって私たちは、神様に感謝し、喜んで、隣人と共に生きることができるようになるのです。それは主イエスの守りによることです。私たちは主イエスの守りの中で投げ倒され、そして癒されるのです。

私たちが本当に恐れるべきは、悪霊に捕らわれ続けることです。自分さえ良ければ誰かを犠牲にしても良い。自分の過ちを決して認めない。そのような考えの先には孤独しかありません。主イエスの権威ある言葉によって明らかにされる自らの罪を認めることによって、私たちはその孤独への道から引き離され、悪霊の支配から解放され、自由になって、人々と共に歩むべき道を見出していくのです。